



法性寺町で靴下と手袋の企画、製造販売を営む、5本指屋でおなじみの澤田繊維産業株式会社の澤田さんに伺いました。

元々は、板屋町で営業されていて、昭和40年頃現在の法性寺町に移られ会社を設立されたそうです。

メインの商品は、軍手、軍足で中でも5本指靴下には早くから着目され、絹製の5本指靴下は業界でも早期に製造されたそうです。さらに、周りの会社が綿色のグンテしか無い時代にカラーグンテを生産し販売されたそうです。

健康関連商品にもいち早く着目され、絹100パーセントのヘルソックス、5本指靴下、遠赤外線、抗菌防臭効果のある靴下、手袋も他社に先駆けて着目されるなど常にユーザーの要望にマッチした商品作り、時代のサイクルに対応できるオリジナル商品の企画、生産、販売体制を確立されました。岡崎商工会議所青年部では、入会后、約半年でNPO委員会の委員長を任せられNPOについてのパネルディスカッション（公開例会）、台湾高雄IMCとの交流など、いろいろご苦労されたそうですが、それでも「委員長を実際にやってみて良かった。良い経験をさせて頂きました。せっかく、岡崎商工会議所青年部に入会したのなら委員長以上を経験される事をお勧めします。」と心に残るメッセージを頂きました。





三河商人道

PART
88

大丸株式会社
代表取締役 大竹隆 君

大竹さんは今年で創業65年目を迎える帯芯卸の大丸株式会社の3代目の社長になります。

帯芯は字のごとく、着物の帯の内側の芯となる部分です。全国の帯芯の約90パーセントを三河で生産しています。三河で20社、岡崎にも6社あるそうです。取引先は主に関東で、北海道、関西、四国と広範囲に及びます。芯の種類も20種類ほどあり、白色が70パーセントで主流だそうです。

また、帯芯の他に法被も製造していて、岡崎商工会議所青年部が現在使っている法被も、多々内会長時代の平成12年に大丸株式会社で作っていただきました。使い込めば使い込むほど、渋い色合いになるしっかりした生地もさることながら、岡崎城をイメージした石垣は飽きのこないデザインです。また背中中の『おかざき』の斜めの赤い文字はどこに行ってもよく目立ちます。大竹さんいわく、「斜めに文字を入れたのは、先にも後にも経験がない・・・」ということでした。

岡崎商工会議所青年部に設立の年から入会し、昨年の平成20年には20周年実行委員長としてご活躍されたことは皆さんの記憶にも新しいところです。「事業は大変だったが素晴らしい仲間ができました・・・」と常に前向きな姿勢・行動で周囲を引っ張られます。岡崎商工会議所青年部では副会長をはじめ、理事を8年間歴任され、300人もの人と出会い、強い絆を築かれ、多くの人という財産を得ました。

大竹さんの実家は矢作にありますが、三兄弟の末っ子で長男、次男は後を継がず三男の大竹さんが家業を継ぎました。ご家族は奥さんと大学3年の長女、大学2年の長男です。

もう十年も経てば、大竹さんのお子さんが大丸株式会社をさらに盛り立てていかれることでしょう。今後の社業のご発展を心よりお祈り申し上げます。





三河商人道 PART 89

有限会社BeeGee
代表取締役 馬場 好雄 君

兵庫県のご出身で、起業前は伝説の証券マンとして敏腕を振るう日々を送られていた馬場さん。現在は、サロンの運営及び化粧品販売を軸に、FC店舗の経営指導にも力を入れておられます。11店舗もの運営をこなされながらも、大型商業施設への出店拡大に意欲を燃やされているところはさすがA-K i n d魂の持ち主。



路面店とインショップの客層や商売の違いを冷静に分析されており、「じっくり腰を据えて商売をする路面店に比べ、セオリーが当たれば爆発的な反応を見せるインショップ運営も商売の醍醐味ですよ。」と熱く語られました。



昨今の不況下においても各店舗とも好業績をあげているBeeGee。企業理念の『女性の美しさの創造』と『夢の実現』にあるように、女性の美に対する意識の奥深さだけではなく、スタッフのモチベーションを常に上昇させる仕掛け作りを完成させている結果なのでしょう。

遊びも仕事も全力投球のチョイ悪オヤジから後輩に一言、「岡崎商工会議所青年部は、自己研鑽にはうってつけの場、こんなに暖かくてアットホームなのに、しっかりと鍛えてくれる。今後もこの会を大切に育ててください。」



岡崎の女性が美しくなったのも馬場さんのおかげでしょうか、ますます加速していくBeeGee号から目が離せません。





三河商人道 PART 90

うを勝
竹内 利明 君

康生のド真ん中で三代に渡り日本料理店を営む『うを勝』の竹内さん。岡崎商工会議所青年部、設立当時のチャーターメンバーです。

「いつ来店していただいても、目新しいものを」と、常に料理の勉強を熱心にされています。「評判のいいお店にはなるべく足を運ぶようにしているんですよ」。自分の目と舌で、本当の意味での“旬”を確かめているんですね。「もしよかったら、メンバーの皆さんもいろいろなお店へいった感想を教えてくださいよ（笑）」と探究心も旺盛！

そんな竹内さんですが、この道に入ったキッカケは先代のお父さん。「父は『好きなことがあったら、そっちをやってもいいんだぞ』と伝えてくれたんですが、僕は同じ厨房で働きたいなあって思いました。現在は僕に任せてもらっていますが、その気持ちは今も変わりませんね。いい話じゃあないですか！後を継いでもらうにはステキな背中を見せるのが一番なのかも知れません。

竹内さんの得意は『八寸（前菜をキレイに盛り合わせたもの）』。「やっぱり料理のはじめですから、『わあ！』とテンションをあげていただきたいなと思ひまして」。確かに日本料理は味だけでなく、盛り付けや器の美しさも大切です。また、来ていただくお客様に合わせてメニューを変えているのだそう。「お酒が好きな方達が集まる会には少し塩気の多いものを。女性ばかりの場合は、見た目を派手にして品数を多くしたりしています」。なるほど、こういった細やかなサービスが80年以上も続いてきた秘訣なんですね。

では、青年部活動はいかがだったのでしょうか？「仕事柄なかなか参加できなくて…」とのことですが、「青年部は横のつながりができるのがありがたいです。僕ずっと厨房の中でしょう。外に出て人と接することって本当にないですよ。話を聞くだけでも見聞が広がりますね」。メンバーとのちょっとした会話も刺激になったのだそうです。できる範囲で青年部活動を楽しまれたようです。来年からはOBとして、どうぞよろしくお願ひします！





三河商人道 PART 91

株式会社ミラートーク
代表取締役 牧野 賢次 君

25年前、中島町にて奥様と2人、貸し店舗で始められた美容室「MIRROR TALK」。現在では50名の従業員を抱え株式会社ミラートーク「MIRROR TALK GROUP」として岡崎市南部地域に美容室5店舗、マリエール岡崎のブライダル業務を手がけ事業をなお拡大されておられます。「時代が良かった、運が良かった、自由勝手にやってきた」と気さくに話される牧野さんですが、その裏に経営者として常に最高のものを求めるその気概に圧倒されます。

この25年間で一番大変だったのは、まだ1店舗だった時にハサミをサロンに置き現場から離れ経営に徹した頃。職人が現場から手を離す怖さ。その怖さから経営者がやるべきこと、従業員がすべきこと、生き方すべてを文章にまとめ、経営計画書、年間計画表など作成し従業員に毎年配りその通りに行動しているそうです。経営者にとってライバルは「時代」。お客様は常に外からの視点で見ているもの。お客様の役に立つよう、ニーズからずれぬよう、時代遅れにならぬよう常に外からの視点で考え、先を読み、大胆さと緻密さを併せ持つことが経営者のすべきことと断言されました。

青年部に入会した理由は「仲間をつくりたいなあ。近くの異業種、遠くの同業種が良い」。飲み友達も出来た。一番の思い出の事業は岡崎市中心総合公園で行われたヘアメイクショー。自分のことを30歳位だと思っていたら、青年部の卒業生と言われて初めて50歳になったと気づいたよと言われるほど若々しい。しかし卒業はさみしいなあ、本当にさみしいなあと。

美容業はリピーター商売。お客様のニーズに応え、ひいては美容を通して社会に貢献していきたいと牧野さん。

超高級ドイツ車をさり気なく乗りこなすも「私らじゃあ、贅沢してもまだまだせいぜい車ぐらいだよ」とまだまだこれからと野心を燃やす魅力あふれる先輩でした。

因みにミラートークは男性客が3割を占める店。岡崎商工会議所青年部の方もおしゃれのために美容室にどうぞとのことでした。





三河商人道

PART
92

株式会社岡崎・セントラルホテル
常務取締役営業部長 時広 和子 君

名鉄東岡崎駅南口にそびえ立つ岡崎・セントラルホテル。駅から徒歩30秒?!という近さ、そして親切かつ丁寧な接客でたくさんの方が利用しているビジネスホテルです。

昭和26年、初めは旅館からスタートし、岡崎の発展や時代のニーズに合わせ、現在のビジネスホテルになったそうです。

時広さんは、仕事をするにあたり大切にしていること…それは「楽しさ」ということだそうです。

「お客様のことも考えていますが、まず初めに働いている人が楽しく仕事ができることが大切ですね。“今日一日楽しく仕事できました!”って言えるように人間関係を作っていく。楽しさってというのは、仕事に現れてきて、それが接客に活かされる。そんな接客からお客様が喜んでいただいて、お客様がお客様を呼んでくださる。小さいながらも地に足のついた仕事をしていきたい!」と語っていただきました。確かに!働いていらっしゃる皆さんの笑顔がとても素敵でした。

岡崎商工会議所青年部に入ったきっかけを聞いてみると「太田薬新堂薬局の太田さんから“40歳過ぎても『青年』って呼ばれる会があるんだよ」と言われ、面白い!と思って入会されたそうです。

印象に残っている活動は?と聞くと「18年度研修Ⅱ委員会の時、1年間感謝について考えるという活動をしたことですね。青年部活動としては異色な委員会だったと思うし、このことは今の仕事にもとっても活かされているんですよ。」とお話していただきました。

時広さんは仕事について考えると、考えすぎて動けなくなってしまうそうです。そんな時は、岡崎商工会議所青年部で活動することにより、異業種のいろんな立場の方々から意見をいただき、新しい考えが浮かんできて、本当に良かったそうです。

いつも元気いっぱい!笑顔いっぱい!の時広さん。卒業されても、是非OBとして青年部にパワーをくださいね!

